

轍わだち

2025. 4. 14 NO. 175

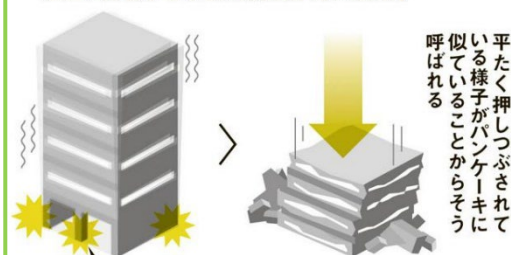
ミャンマー地震救援募金にご協力ください！

2025年3月28日、ミャンマー時間12時50分（日本時間15時20分）、ミャンマー中部のマンダレー近郊を震源として大地震が発生しました。国内を南北に通るザガイン断層のずれによって生じた地震であり、ミャンマーの歴史においては1912年メイヨー地震以来最大の揺れを観測しました。死者数も1930年バゴー地震以来最大となり非常に混乱に陥っています。



パンケーキクラッシュとは

揺れによって柱が強度を失い、連鎖的に全ての階が垂直に崩壊するなど、危険度が高い壊れ方

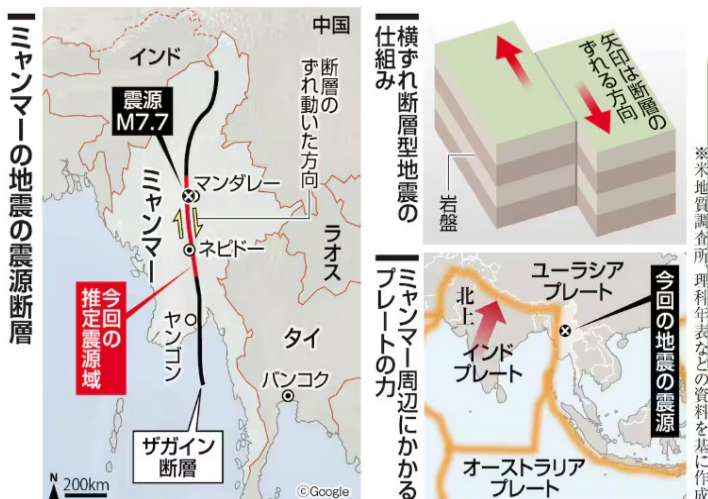


原因 柱の弱さ（柱が細すぎる、鉄筋が少ない）

全荷重がかかる1階部分がピロティなどだと起こりやすいが、中層階からはじまる場合も。崩壊がほかの階の崩壊の引き金に

マグニチュード7.7を観測した地震によって、ビルなどが倒壊し、一部では建物の1階部分が潰れて上層階が重なるように崩れる「パンケーキクラッシュ」とみられる現象も起きた。国土地理院が地球観測衛星「だいち2号」の画像データを解析した結果、南北に延びる断層が400キロメートル以上にわたり水平方向に最大6メートルずれたとみられるという。静岡大学の石川有三客員教授が、海外の研究機関のデータなどをもとに気象庁震度階級に換算したところ、震度7に相当する地域があった他、6弱～6強の地域が300キロ以上にわたり広がっていたといい、同じく直下型で横ずれだった阪神・淡路大震災と比較して大きな規模だったと推測しています。

（朝日新聞4月4日より）



ミャンマー中部で3月28日に発生したマグニチュード7.7の大地震は、死者3000人超の大災害となった。震源は、長年にわたり顕著な地震がなかった「空白域」で、蓄積したひずみを解放する大地震の発生リスクがあると危険視されていた。断層のずれが高速で進み、衝撃波を伴う「スーパーシア地震」という特殊な地震となり、被害を拡大した可能性も指摘されている。

（産経新聞4月6日より）

私たち UNESCO 部の部員はこの大地震の被害を重く受け止め、4月と5月の11円募金を合わせてミャンマー地震の救援募金に充てます。集められた募金は「日本赤十字社」等を通して送る予定です。みなさん、どうぞご協力をお願いします。



岩手 ^{おおふなと} 大船渡 山林火災「鎮火宣言」



大船渡市で今年2月26日に発生した大規模な山林火災について、市は、発生から40日となった今月4月7日、「鎮火」を宣言しました。空気の乾燥した状態が続いたことなどから延焼が拡大し、先月9日に「鎮圧」が宣言されるまでに焼失した「面積はおよそ **2900 ヘクタール**と、平成以降で最大規模の山林火災」となりました。消防などは、その後も地上と上空から残り火や熱源の確認を慎重に進めてきましたが、3月23日の調査で白煙が

2か所で確認されて以降、新たな熱源などは確認されませんでした。そして発生から40日となった4月7日、渕上清市長がみずからヘリコプターに乗って上空から偵察したうえで、再び燃え広がるおそれはなくなったとして、「鎮火」を宣言にいたりしました。今回の火災では、三陸町綾里の小路地区に住む90歳の男性が亡くなったほか、全壊の住宅54棟を含む221棟の建物が被害を受けました。

陸前高田市(岩手県)佐藤さんからのメッセージ

今年2月に中学2年生の総合の授業でお話いただいた、陸前高田市の佐藤さんから、お手紙を頂きました。「**(中学2年生のみなさんが書いたレポートを拝見して、)自然災害やまちづくりについて自分事として考えていることが伝わり安心しました。さて、私事で恐縮ですが、昨今全国的に報道されている岩手県大船渡市の山林火災で私の住む綾里地区も避難指示の対象となり、2週間ほど避難所で生活しました。幸い自宅は無事でしたが、親せきや同級生の家が全焼するなど、改めて自然災害への備えの大切さや恐ろしさを実感したところです。**



震災から14年が経過し、「震災の風化」なども問題になっているところではありますが、当市としては今後も震災伝承の取組等を進めてまいります」。(一部抜粋)

地方自治体などは、農林水産業なども含めた被害の全容の把握を急ぐとともに、被災した人たちの生活再建を支援していくとしているものの、近隣の住民からは「火災の影響で山の状態が変わっていると思うので、梅雨の時期に土砂災害が心配だ。木の伐採や植林など、対策を早めに進めてもらいたい」などの声も上がっていると言います。今年に入り、記憶の新しいところでは、アメリカのロサンゼルス市、岡山県南区的森林火災があります。以前はキャンプに入った人の火の不始末などが主な原因とされていましたが、ここ最近のものは自然の驚異によって起こりうるものとされています。被災して、なお続く生活の不安と生活・いのちの安全面をどう支えていくかについての公的支援はもちろん、我々のできることにについて考えられます。

UNESCO 部で活動しませんか！！

被災地支援実行委員（生徒自主活動）より継続して行われている、被災地支援の輪。

是非、支援の輪のメンバーになってください。問い合わせ 総合科 佐藤先生、濱田先生

